



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年10月13日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:4名

指導員:4名

テーマ 木の实・草の実

この時期になると、クマ出没の報道をよく目にし、原因は山のドングリなどが凶作で、餌を求めて里に出てくるためと言われます。隣の岐阜県では今年のドングリ類の作柄は、ブナとミズナラが凶作、コナラが並作とのこと。ここの公園にもブナ科の樹木(8種ほど)のほか、エノキ、ムクノキなどがあります。堤防は草刈り直後で、見るべきものが少ないため、いつもとは別のコースで、木の実の豊凶状況に注目して回りました。実を数えて定量的にデータをとったわけではありませんが、皆で目視して確認した限りでは次のような感じでした。 豊作:アキグミ、モクゲンジ 並作:アベマキ、クロガネモチ、ムクノキ 凶作:コナラ、ナラガシワ、マテバシイ、アラカシ、エノキ、クス



(ウッドデッキからムクノキの実を観察)

どうやら、ドングリ類の作柄はここもよくないようです。木の実はなり年(表年)と不なり年(裏年)が周期的に出現すると言われますが、この夏の高温などの条件が影響しているかもしれません。

今年はいろいろな花の時期が遅れていて、まだヒガンバナの花も見られます。先月、大野極楽寺公園で見た早咲きの花はコヒガンバナで、果実が膨らんでいました。周りのヒガンバナの花の後と比べると違いが分かります。(花の形状では区別困難ということです。)

例年ならこの時期には咲いているキンモクセイは、やっと蕾が膨らみ始めたところですが、近縁のウスギモクセイの方はちょうど咲き始めたところでした。

近くの御囲堤(徳川家康が築かせた木曾川の旧堤防)に、ツリガネニンジンの大きな群落がありました。花は終わりかけでしたが、半月前には50m程に渡って一面のお花畑でした。たまにはコースを変えてみると、新しい発見がありますね。

そろそろ山から下りて来てアカトンボの数が増える頃ですが、この日は枝先に止まったアキアカネとノシメトンボ各1頭、池の近くでマユタテアカネ1頭が確認できただけで、昨年より少ない感じです。これから増えてくることを期待したいものです。



御囲堤のツリガネニンジン群落(撮影は9/21)

(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:セイトカアワダチソウ、キダチコンギク、マルバツバコ、ヤブマメ、アレチヌスビトハギ、ヌスビトハギ
虫:クロアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ウラナミシジミ、ツマジロエダシャク、セイヨウミツバチ、コバネイナゴ、マダラバッタ、ウスイロササキリ、チュウゴクアミガサハゴロモ、ヌルデシロアブラムシ
鳥:トビ、モズ、ヒヨドリ、キジバト、コサメビタキ、シジュウカラ、コゲラ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス その他:アマガエル、ウシガエル



コヒガンバナ

コヒガンバナの実



ヒガンバナの花の後



咲き始めたウスギモクセイ



枝先に止まったノシメトンボ